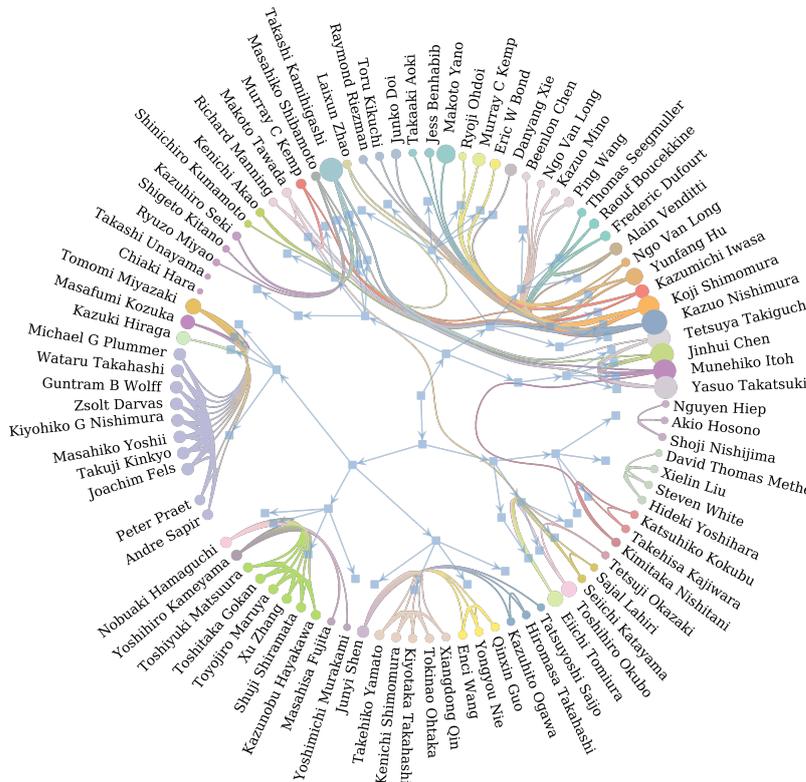


RIEB 研究者の共著関係の可視化

神戸大学 経済経営研究所 特命講師 幸若 完壮

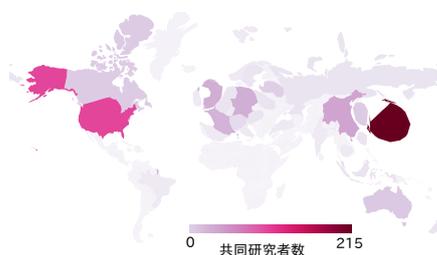
1 RIEB所属の研究者の共著ネットワーク

丸はRIEB所属の研究者、研究者間の枝は共著論文があることを表す。丸の大きさは共著論文の数を表す。似たような共著関係を持った研究者のグループは同じ色で塗られている。四角はグループを表す。グループは階層構造を持ち、上位グループから下位グループには矢印が張られている。

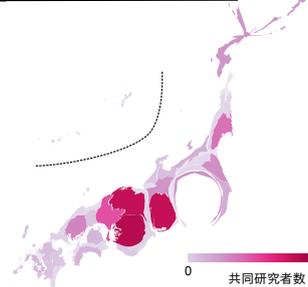


3 海外の共同研究者数の分布

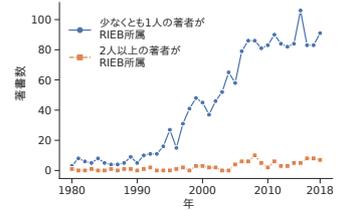
国面積と色は共同研究者数を表す



4 国内の共同研究者数の分布



2 RIEB所属の研究者の著書数



経済経営研究所は100年を迎え、これまで様々な研究が行われてきた。その優れた研究を支えているのは、「研究者」である。本コラムでは、RIEBに所属する研究者の「協力関係」をデータ(*)から可視化した。

まず1ではRIEB内の共著関係を可視化した。殆どの研究者は研究所内の研究者と共著論文を持つ。また、共著関係がない独立した研究グループがいくつか確認できる(例えば、左下のNobuaki Hamaguchiの共著者グループとその左隣のTomomi Miyazakiの共著者のグループ)。これは研究者の研究課題の多様性によるものと思われる。

2は著書数についての推移である。研究所内の研究者との共著よりも他研究機関との共著論文が圧倒的に多いことがわかる。

3、4では国内外の共同研究者の分布を示している。日本国内の研究者が多いことは言うまでもなく、アメリカ、フランス、イギリスといった欧米の共同研究者が比較的多い。それに比べ、アジアの共同研究者は中国を除いて比較的小さい。

国内では関西地方に共同研究者が集中しており、地理的な近さが研究協力を促進していると思われる。

(*) Microsoft Academic Grpah には Microsoft 社の Bing の検索にヒットする全論文が記録されている。いくつかの文献が記録されていない、RIEB に所属していない研究者が含まれるなど不正確な部分があるが、修正せずに可視化していることに注意されたい。また、「研究者」は論文を発表した人であり教員とは限らない。